

令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立可部高等学校	対象となる主な学年	全学年
取組事例名	「 地域ボランティア活動への参加 」		

◆ 生徒の実態及び取組を通して育てたい生徒像	
生徒の実態	取組を通して育てたい生徒像
多くの生徒は、落ち着いた高校生活を送っているが、自己肯定感や人間関係形成能力が低く、学校を休みがちな生徒もいる。	<p>○自己肯定感・自己有用感を持ち、安定した生活を送ることができる生徒</p> <p>○人間関係形成能力と寛容な心を持ち、誰とでも望ましい関係を築き、それを維持できる生徒</p>



◆ 取組の具体的内容			
取組を実施する意図及びねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己肯定感・自己有用感を高める。 ・生徒の人間関係形成能力・寛容性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の社会や地域に貢献する意識を高める。 		
取組の流れ・創意工夫・生徒の変容等			
<p>生徒の自己肯定感・自己有用感、人間関係形成能力・寛容性、社会や地域に貢献する意識を高めることを意図して、様々な立場や年齢の地域の方々と共にボランティア活動を行う場を提供した。</p> <p>①クリーン太田川ボランティア 近くを流れる太田川の清掃活動に、59名の生徒が手袋持参で参加し、地域の方々とゴミ拾いを行った。</p> <p>②井仁の棚田の田植えボランティア</p> <p>③可部駅西口清掃活動</p> <p>④可部夢街道祭りボランティア 企画の段階から参加し、放送部、ダンス部、家庭クラブ、吹奏楽部も含め51名が参加した。</p> <p>⑤第2回オープンスクールでのボランティア 受付と司会進行を生徒が行った。</p>			
<p>① </p>	<p>② </p>	<p>④ </p>	<p>⑤ </p>
<p>今年度、ボランティア活動への参加を各部活にも積極的に呼びかけた結果、参加者は例年の約50名から145名へと大きく増加した。(学校が窓口になっていないものは除く)</p> <p>生徒から次のような感想が聞かれ、個々の生徒の成長が感じられた。「地域の方に名前を覚えてもらった。」「自己存在感の感受」「企画したことが実現されてやりがいを感じた。」「自己決定の場の提供」「いろいろな人と一緒に喜び合えてうれしかった。」「共感的な人間関係」</p>			

◆ 成果 (○) と課題及び今後に向けて (●)
<p>○成果：「すべての生徒が、いろいろな人と良い人間関係を築き、それを維持できるようになる」を「よりよい学校づくり」の取組の目標の1つにしている。アンケートの結果、生徒の83.6%が、取組を肯定的にとらえていることが分かった。また、取組を継続していくことに意義があると答えた生徒は、88.9%にのぼっている。これらの結果から取組の一定の成果を感じることができる。</p> <p>●課題：欠席の多い生徒の割合には大きな変化が見られない。来年度は、特定の生徒ではなく、すべての生徒が自己肯定感を高めることができる取組を実施する必要があると考える。</p>